

1 単元 近代国家への歩み ～江戸時代を終わらせたのは何か～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、「江戸幕府の成立と支配体制の確立」において、時代を大観的に捉え、特色を見出す経験をしている。そこでは、幕府・大名・朝廷・寺社といった複数の主体の関わりに着目し、近世社会が封建的秩序のもとで安定した要因について理解を深めてきた。このような子どもが、近代国家へ進む過程における江戸時代末期の転換点に着目し、分岐を担った存在を考察する活動に取り組めば、時代を比較・分析しながら、異なる視点や背景に気付くことで、時代の特色を多面的・多角的に捉え、社会の見方を広げることができるだろう。

そこで、単元を構想するに当たっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、幕末から明治維新という大きな転換期を考察することを通して、近世から近代への移行の特色を捉えることができる教材となっている。ここでは、幕府・朝廷・諸藩・志士・庶民・外国勢力といった多様な主体の動きや、政治・経済・社会・文化の相互作用を多面的・多角的に整理しながら、歴史の転換点を解釈する力を育成することが大切である。そこで、「江戸時代を終わらせたのは何か」という課題に取り組み、時代の変化を自ら問い直し、解釈をまとめる活動を設定する。子どもは、資料や年表などを比較・分析し、江戸時代を終わらせた要因や主体について自らの考えを、根拠を明確にして説明しようとするだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めに、幕末の国内外の状況や幕府が直面していた課題について考察させる。そうすることで、幕府・朝廷・諸藩・志士・庶民・外国勢力といった多様な主体の動きを整理し、江戸時代が終わりを迎える背景を多面的に理解できるようにする。
- 単元を通して、学習の過程を振り返る活動を適宜取り入れる。そうすることで、生徒が自らの学習の進め方や考察の視点を自己評価し、課題解決と追究の往還を通して、歴史を主体的に解釈しようとする態度を育むことができるようにする。

3 目標

- (1) 幕末から明治維新にかけての国内外の動きや、多様な主体の関わりについて理解するとともに、史資料や年表・図などから必要な情報を効果的に収集・整理する技能を身に付けることができる。【知識及び技能】
- (2) 「江戸を終わらせたのは何か」という課題に対して、時期や推移、比較、因果関係、相互の関連などに着目しながら多面的・多角的に考察し、根拠を明確にして自分の考えを表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 幕末から明治維新への転換を多面的に捉え、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を育む。【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 8 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ①	○ 「江戸時代を終わらせたのは何か」という単元を貫く学習課題に対する自分の仮説を作成し、交流する。 ・ 追究課題の設定 ・ 視点の確認	○ 江戸幕府の安定を支えた要因を振り返りつつ、幕末の出来事や人物、庶民の動きを複数提示する。そうすることで、幕府の終わりに多様な要因が関わったことに気づかせ、課題に対する仮説をもたせることができるようにする。
二 ⑥ 本時 5 ／ 6	○ 情報を収集し、考えを整理する。 ・ 課題追究（課題発見・課題解決の往還） ・ 解釈の決定 ● 全体共有の場で、他者と意見交流を行い、時代の特色について整理する。 ・ 近世、近代の特色 ・ 時代が転換期する際の共通点 ・ 可能論についての検討	○ 個人での追究の時間を確保する。そうすることで、自身の問いに対して、資料やデータをもとに論理性・妥当性・根拠を意識しながら考察することができるようにする。 ○ 必要に応じて、全体で共有する時間を設定する。そうすることで、学びを他者と共有し、多様な立場や文脈から課題を捉え直し、他者との視座の違いに目を向け、協働的に新たな見方や価値を構築することができるようにする。
三 ①	○ 単元を貫く学習課題に対する自分の考えをまとめる。 ・ 時代の大観	○ 各自の考えを文章や図解など多様な方法で表現させる。そうすることで、歴史的事象を自分の言葉で整理し、単元を通して得た知識のつながりを明確にできるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 幕末から明治維新にかけての国内外の動きや、幕府・朝廷・諸藩・志士・庶民・外国勢力など多様な主体の役割を理解している。	・ 「江戸時代を終わらせたのは何か」という課題に対して、各主体の行動や国内外の状況の関連に着目し、事象を相互に関連付けて多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	・ 幕末から明治維新にかけての歴史的課題に関心をもち、課題の解決と追究を往還しながら自ら歴史を解釈し、よりよい社会の実現を視野に探究しようとしている。

6 本時案 ー第二次・5時分ー

- (1) 主眼 新たに見出した課題について考察することを通して、時代の変容や特色についての理解を深めることができる。
- (2) 準備 学習用端末
- (3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時までの調査結果を共有する ・江戸時代を終わらせた主体の検討 ・可能論についての検討	ア 幕府が財政危機に追い込まれ、政治もうましくいなくなったから イ 薩摩や長州のような藩が力を持って、倒幕運動につながったから ウ 黒船来航で外国に対応できなくなったから エ 尊王攘夷運動によって、幕府の権威が下がったから	・全体で共有する時間を設定することで、学びを他者と共有し、協働しながら新たな見方や価値を構築することができるようにする。 ・前後の時代と比較させることで、時代を意識しながら、説明することができるようにする。	15
2 「江戸時代が終わらず、江戸幕府が存続することは可能だったのか」という視点で検討する ・江戸時代の大観 ・明治初期の大観 ・相関関係の整理	ア 黒船だけではなくて、その後の開国による経済の混乱が大きいので、存続は難しかった イ 倒幕が成功したのは、天皇を中心とした政治への期待が人々に広がったからであり、存続は難しかったのではない ウ 江戸幕府の始まりでは、武力を凍結して大名をコントロールできたから安定した。終わりのときは逆に、その武力を抑えきれなくなったことが崩壊の大きな要因である	・生徒が前時までに調べたり振り返ったりした内容をあらかじめ把握し、生徒の考えを深めたり揺さぶったりする準備しておく。そうすることで、交流の場面で関連する生徒の発言を自然に引き出せるようにする。 ・議論が停滞した場合には、江戸時代の仕組みについて根幹を考えさせる。そうすることで、明治前半との比較を通して歴史の転換を理解できるようにする。	40
3 新たに見出した課題や、解決するための方法を共有する ・本時の振り返り ・学習活動の見通し ・学習活動の選択	ア 外国との不平等条約が本当に幕府のせいなのか、新政府のせいなのか比べたい イ 江戸時代とは何かについての検討を行いたい	・本時の課題や課題の解決方法について振り返る場を設定することで、次時の活動について見通しをもつことができるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

江戸時代末期から明治時代初期にかけての時代の変容や特色についての理解を深めることができたか、発言や振り返りシートへの記述からみとる。

<メモ>